

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>「質実剛健」の伝統訓を基調にして、互いに切磋琢磨し、人間性豊かで社会的に自立した職業専門人の育成に努める。～感動あふれる学校づくり～</p> <p>生徒自らが主体的に様々な学校での活動において、高い目標に挑戦し、明るく元気で活力ある学校づくりを目指す。また、ふるさとに誇りを持てるよう、地域社会との連携を深めながら、地域の活性化に貢献できる人材を育成し、生徒の達成感・充実感を高める指導を行う。</p> <p>教職員も健康でいきいきと働き、生徒一人一人としっかりと向き合いながら生徒と感動を共有できるよう取り組む。</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を切り拓く起業家精神を持ち、グローバルな視点から社会や地域に貢献できる生徒。</li> <li>・変化に対応することができる幅広い知識と教養、倫理観を備え、人間性豊かな生徒。</li> <li>・ビジネスに関する専門的な知識や技能を基礎に、課題解決力や情報活用力を身に付け、将来に向けた社会的自立を実現していく生徒。</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得し、より高度な資格取得に向けた、商業教育各分野の特性に応じた学びの推進。</li> <li>・地域の魅力を発見し課題の解決に取り組む「ふるさと学習」により、地域と連携した課題探究学習を通して、コミュニケーション能力、情報収集力、プレゼンテーション能力の育成。</li> <li>・互いに切磋琢磨し、自ら高い目標を設定して自己実現することができる主体性と積極性を育成するための学校行事や部活動等の活性化。</li> <li>・自己肯定感を高めるため、個々に応じた細かい指導や生徒一人ひとりの個性や長所を伸ばす支援の充実。</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣、基礎的な学力を持ち、学校行事、部活動などを通して、充実した高校生活を送る意欲のある生徒。</li> <li>・自らの得意なことを伸ばそう、見つけようとする意欲があり、自己実現のために努力できる生徒。</li> <li>・商業に関する学びや資格取得に興味をもち、本校の「ふるさと学習」(地域課題解決探究学習)に意欲的に取り組む生徒。</li> </ul>

3 評価する領域・分野	<p>◇教務部 教育課程・学習指導</p>
4 現状の分析	<p>▲テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。 74.4%</p> <p>▲先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。 74.4%</p> <p>▲ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。 71.6%</p> <p>○熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。 84.6%</p> <p>○専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 86.0%</p> <p>○授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。 83.2%</p>
5 学校の抱える課題	<p>◇近年の「新しい教育」への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価をブラックボックスにしない。</li> <li>・旧態依然とした講義形式からの脱却。</li> <li>・「ICTを使う」ことを目的とせず、生徒の学習効果が高められ</li> </ul>

	るような活用方法を模索する。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力」を育むため、探究的な学びやICTを活用した学習活動の充実に向けた授業改善の推進</li> <li>・新学習指導要領における3観点について、指導方法や評価の体制を整える。</li> <li>・「読む力」を向上させるための指導を充実させる。</li> <li>・若手教員の育成</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 積極的なICTの活用による授業の効率化 (2) 読書週間  (3) 若手教員対象の研修	(1) 生徒の学習姿勢 (2) 公開授業・学習指導要領改訂に伴う授業改善 ・ICT機器の活用状況 (3) 研修後のアンケート	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・生徒による授業評価  ・教員間の公開授業実施  ・若手研修会実施	①生徒及び保護者等を対象とするアンケート ②実施率  ③実施後のアンケート	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成果 課題	<p>○若手教員対象の研修会を実施し、若手教員同士が悩んでいることや授業で行っている工夫などを共有することができた。</p> <p>○公開授業週間を実施し、互いの授業を参観し授業評価をシェアうことができた。</p> <p>・また、生徒による授業評価より、指導方法や評価方法の工夫改善に努めることができた。</p> <p>▲ICTのよりよい活用のため、教員の意識改革が必要。</p> <p>▲多忙のため、公開授業の実施ができていない教員が複数存在する。すべての教員が授業改善に取り組むことが必要。</p>	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習効果を高めることにつながるようなICTの活用例を紹介するなど、教務部から発信していく。</li> <li>・公開授業週間を行うことにより、それぞれが授業改善を考えてもらえるように周知する。</li> </ul>	

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部 生徒指導・教育相談・特別活動	
4 現状の分析	◇生徒指導・教育相談 ○高校生としてのマナーや社会的規範を身に付けさせるための指導を行っている。 85.1% ▲いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 56.5% ○生徒の相談に丁寧に応じている。 71.4% ◇特別活動 ▲外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習機会を生徒の安全に配慮しながら適切に提供している。 69.9% ○部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 83.0% ▲ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。 45.7%	
5 学校の抱える課題	◇各学年団、特別活動、生徒会との連携と学校行事の見直し ◇教育相談体制の充実とケース会議等の素早い対応	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年団と協力し、「社会人として通用する商業生を育てる」取り組みを行う。</li> <li>・教育相談の充実と外部教育相談機関との迅速な連携を図り、スピード感をもって事案の対応に努める。</li> <li>・生徒に有用となるアルバイトの体制へ見直す。</li> <li>・LGBTQに対応できる制服を検討する。</li> <li>・生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組みを行う。</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 社会人として通用する商業生を育てる取り組み (2) 教育相談の充実と外部相談機関との迅速な	(1) 常識ある身だしなみ、コミュニケーション能力、集団生活での規範意識の向上 (2) 困り感がある生徒への声かけ等の対応と情報	

<p>連携</p> <p>(3) アルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 制服の見直し</p> <p>(5) 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取組</p>	<p>共有</p> <p>(3) より実態に即したアルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 社会人として通用する中津商業生を意識した制服の検討</p> <p>(5) 学校行事、各種委員会、MSL活動を生徒会中心に企画運営させ達成感を得られる教育的支援</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間5回の髪型服装指導と事後指導の徹底、身だしなみを自己管理できるようにする対話指導</li> <li>毎週実施の生徒指導部会、各学年会、不定期実施の教育相談会での情報共有</li> <li>生徒会中心の学校行事や各学年会主催のLHRを上手く連携させ、生徒同士の横の繋がりを意識した教育的支援</li> </ul>	<p>①身だしなみの再発防止ができている</p> <p>②教員による情報共有ができ、意志統一が図れている</p> <p>③様々な行事において、生徒会、各HR委員各種委員会等で生徒による主体的な活動ができている</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果課題	<p>○学年を中心に日頃から身だしなみ等が気になる生徒に対して、対話を心掛けた指導により、できるだけ生徒本人が納得し、自己管理することができるよう、身だしなみへの規範意識を高めることができた。</p> <p>○各学年、教育相談、特別活動課を中心に、生徒に「自他の存在を認め合い尊重する」という仲間意識や集団生活等での意識向上を踏まえ、社会人として通用する常識を身に付けられるような取り組みを推進することができた。</p> <p>▲一方で、社会人として通用する一般常識、マナー・モラルアップへの意識が不十分であり、自分で気づいて修正できる能力の向上が必要である。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等や生徒指導的な事案（例えば、身だしなみ）を、生徒が自分（達）で「自主性」や「社会性」を意識し、考え行動できるように、教師側の共通理解を持ち、「社会人として通用する商業生の育成」を見据えた学校生活を経験する取組を充実させる。</li> </ul>	

3 評価する領域・分野	◇進路指導部	
4 現状の分析	<p>○生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。 76.9%</p> <p>○生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。 79.1%</p>	
5 学校の抱える課題	◇進学希望者に対して、生徒一人ひとり異なる進路の実現に向けての支援体制の充実	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習や地域社会と連携したキャリア教育の充実</li> <li>生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、確かな学力や専門的な知識、技能、表現力を身につけるための指導の充実</li> <li>生徒の適性に沿った進路先の確保</li> <li>難易度の高い大学に挑戦し、合格できる実力を養成するための指導の充実</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進路講話をタイムリーに実施できるよう外部と連携し、組織的に取り組む</p> <p>(2) 全生徒対象に校内模試や面接指導を実施する</p> <p>(3) 全学年で進路ガイダンスを実施する</p> <p>(4) 国公立や難関私立大学への進学対応に取り組む</p> <p>(5) 継続事業の「キャリアパスポート」に取り組む</p>	<p>(1) 講話の実施状況とアンケート実施</p> <p>(2) 面接指導やSPIテスト等の企画・提案状況</p> <p>(3) アンケートの実施、保護者の参加状況</p> <p>(4) 小論文指導や大学見学等の実施状況</p> <p>(5) 企画・進捗・完成度・実施状況</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>進路ガイダンスの実施について</li> <li>1年生は10月に大学・短期大学・専門学校24校、分野ごとの説明会を実施</li> <li>2年生は11月に企業9社と市役所、卒業生10名による講演と各ブースでの説明会を</li> </ul>	<p>①進路諸行事の企画と提案状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの実施と分析は出来たか。</li> <li>大学、卒業生、関係企業等との連携をはかることが出来た</li> </ul>	<p>(A) B C D</p>

<p>施、進学は23コースによる体験実習等を実施 3年生は8月に外部講師による就職面接指導や進学小論文指導などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面接指導について 2年生は2月に、進学については中京学院大学から、就職については専門学校より講師を招聘して実施 3年生は6月と9月（就職希望者）と10月（進学希望者）に実施</li> <li>難関校への進学希望者への取組 基礎学力テストや外部模試の実施（2年生6回、3年生4回） 資料頒布会の実施</li> <li>継続事業への取組 学年会と協力し、「キャリアパスポート」（進路ノート）の活用</li> </ul>	<p>か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ実習先の確保と生徒アンケートの分析</li> </ul> <p>②進路諸行事の企画と提案状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの実施と分析は出来たか。</li> <li>大学、関係企業等との連携をはかることが出来たか。</li> </ul> <p>③進路諸行事の企画と提案状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の提供ができたか。</li> </ul> <p>④進路諸行事の企画と提案状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「進路ノート」の活用が出来たか。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果 課題	<p>○3年生就職希望者に対しては、自分に合った進路選択や、ミスマッチや不本意入社等による離職者を出さない指導の充実を図ることが出来た。</p> <p>○3年生進学者についても現状に甘んずることなく、一段と高い目標に挑戦する意識づけと個々に対し、いろいろな入試方法や学習方法を説明し、補習等により入試対策を実施した結果、難関校に挑戦、合格することが出来た。</p> <p>▲進学希望者が増加しており、生徒一人ひとり異なる進路の実現に向けての支援体制の充実を図る。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小論文指導について、来年度も教員研修を計画し、全職員での指導体制を目指す。</li> <li>看護・公務員希望者への指導が一部の教員の負担になっており、指導方法の見直しと改善を図る。</li> <li>進路関係行事については学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。</li> <li>生徒や保護者に向けてより充実した情報提供を心がける。</li> </ul>		

3 評価する領域・分野	◇商業教育 教育課程、学習指導、地域との連携等	
4 現状の分析	<p>○「課題研究」の内容は生徒にとって有意義である。または、有意義そうである。 74.1%</p> <p>○学校は、各種検定試験・資格取得の指導に熱心に取り組んでいる。 85.7%</p> <p>○本校は、地域社会との連携を図るよう努めている。 75.2%</p> <p>○本校は、教育活動の成果を外部に対して積極的にPRしている。 75.8%</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇コースごとに特徴を生かした、探究学習・検定試験対策を研究。</p> <p>◇地域との連携に向けて、モラルやビジネスマナーの向上・定着。</p> <p>◇学習活動や学習成果を、学校内外に向けて積極的に発信。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の育成</li> <li>心豊かな人間形成</li> <li>地域に必要とされる人材の育成</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 基礎基本の定着化と専門性の深化</p> <p>(2) 各種検定、高度資格、各種競技会へ積極的挑戦</p> <p>(3) 学力向上を支援するための、教育技術の向上</p> <p>(4) 基本的なモラルとビジネスマナーの定着</p> <p>(5) 意欲的、自主的、自律的な生活姿勢の育成</p> <p>(6) 開かれた学校作り</p>	<p>(1) 各種検定試験の合格者数や合格率、各種競技会の結果</p> <p>(2) 各種検定試験の合格者数や合格率、各種競技会の結果</p> <p>(3) 各種検定試験の合格者数や合格率、各種競技会の結果、生徒の評価</p> <p>(4) 外部評価、対外活動事業の成果</p> <p>(5) 生徒の学習に取り組む姿勢</p> <p>(6) 保護者や外部の評価</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・全商検定試験などの合格者や合格率などの分析	①各コースの検定目標や競技会	A B C D

及び各種競技会への取り組み ・授業規律の徹底、情報機器などの使用状況の把握 ・外部との連携事業、販売実習、出前授業、講演会等の実施	での成果 ②授業時の挨拶・態度・授業終了後の教室状況 ③対外活動への参加状況・評価	(A) B C D (A) B C D
12 成果 ・ 課題	○商業系部活動の競技会等での活躍（簿記珠算部珠算部門の全国大会出場）。 ○新型コロナウイルス感染症の制限がなくなり、販売実習などの活動を順調に行うことができた。また、各コースで積極的に外部と連携し、探究学習に取り組んでいる。 ○小学生へのプログラミング教室、中学生への簿記教室の出前授業を継続実施できた。 ○販売実習・地域貢献活動を積極的に行い、関係各所から良好な評価を得た。 ○地元企業から外部講師を招いた授業を開催し、地元企業と連携することで、生徒の意識向上や地域理解に効果があった。 ▲新学習指導要領による科目の特性と検定試験対策のバランスをとるよう研究中であり、検定試験（特に上位級）を中心に影響があった。また、日商簿記検定やITパスポート試験・基本情報試験などの高度資格も合格者が伸び悩んでいる。 ▲授業や課題におけるタブレット等機器の活用は進みつつあるが、その効果の分析と、さらなる有効活用が課題である。	総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・地域と連携した取り組みが増えており、課題研究の内容は充実してきている。今後も、探究型の授業の内容を深化させ、地域行政や企業との連携をさらに深め、地域課題の発見・解決を意識した活動を行う中で、生徒の意欲や自主性を向上させ、課題解決力を育成したい。 ・学習活動や取組内容、成果について、WEB、SNS等も活用し、積極的に発信していく必要がある。 ・スマート専門高校事業で整備された施設などICT環境が整備され、それを活用した授業展開が行われているが、十分に活かし切れていない機器も存在する。研修の実施や外部との連携により、これらを効果的に活用した授業を増やしていきたい。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年11月7日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学率が上昇しているため、生徒へ上級学校の魅力を発信する取り組みをしてほしい。</li> <li>・生徒の課題研究の発表について、プレゼンテーションの方法が非常によくなってきている。スライドのデザインやプレゼンテーションの仕方について、徐々に向上させてほしい。</li> <li>・新しい時代へと変革し、生徒が多様化する中、いろいろな進路を見つけられるよう指導している。</li> <li>・教育が学校だけでなく、地域の人や企業も含めて本校を支えていきたい。</li> <li>・教師は学校内での指導だけでなく、今後さらに学校と地域、他校種などとコーディネートに取り組んでほしい。</li> <li>・これまでのように、ふるさと教育において、地元の企業と提携しながら学びを深めてほしい。</li> <li>・この3、4年で社会が変わってきており、教師の教え方、生徒たちの学び方も変わってきているが、教師や生徒はよく対応できている。</li> <li>・地域に外国人定住者や外国人観光客が増えているため、国際的な異文化学習にも力を入れるべき。</li> <li>・課題研究の発表について、生徒が自分たちで考えて、自分の意見を持って発表できることが素晴らしい。</li> <li>・経済を回す中で必ず反省が出てくるが、課題研究においてもその反省が活かされていたことはよかった。これからもこの反省を活かすという事を身につけてほしい。</li> <li>・生徒がICTを使いこなすことで日本、海外など、どんなところでも活躍できるという事を伝えてほしい。</li> <li>・生徒の課題研究の発表で紹介された、PR動画を作ってもらった企業側からは大変好評だったと聞いている。</li> <li>・外国語の学習以外でも、海外の文化に触れる機会があるとよい。</li> <li>・若い教師が多く中堅の教師が少ないということだが、協力してうまくできている。PTAもできる限り協力したい。</li> <li>・当初は資格取得に力が入っていたが、ここ3、4年で、創造的な発想を膨らませながら、地域に貢献できるような人材が育っている。</li> </ul>
---